

# ウムチョ ムィーザ通信

No. 46

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

## ウムチョムィーザ学園から

### フランソワーズ校長より

ウムチョムィーザ学園を支えてくださっている皆様に感謝申し上げます。当学園の運営母体であるADESOCとして、子ども達の教育のために働くことが出来ることに感謝します。そして、今回JICA草の根事業「ルワンダの小学校教員の算数指導力向上プロジェクト」により、2016年11月27日から12月8日まで日本に行くことが出来たととても感謝しております。



私たち4名は、日本の2つの公立学校を訪問することが出来ました。その中で特に校長として感じたことを紹介したいと思います。

訪問先の校長先生が毎朝、子ども達を笑顔で迎えていることに教育の基本である子どもの心を大切にしていると感じました。また、教室では先生方と子ども達の信頼関係に感動しました。ルワンダでは、まだまだ先生が中心に教え込む授業です。授業内容を事前に準備したうえで教材を十分に活用し、先生はガイド役で子ども達自身が考え、みんな主体的に授業に参加していると感じました。それは古い教え方と違って、子ども達が中心になっていることを学びました。ルワンダの国では、2015年から子どもが中心になる教え方を進めています。やっと日本の教え方をみて実感しました。それと、子ども達が掃除をしている姿を見させていただきました。日本の学校の清潔感に感動しました。文化の一つになっていることが素晴らしいです。彼らが将来のリーダーになることを考えると、私たちも努力してゆきたいと思います。もう一つ、保護者が下校時に交替で迎えにくるなど子ども達の教育に協力してくださっていることをお聞きしました。限られた時間でしたが、日本の教育から多くのことを学ぶことが出来ました。



帰国してから、当学園で毎月1回午後の時間に日本の授業研究を取り入れました。まだまだ事務連絡になりがちですが、指導方法をお互いに研究していくことで、より良い授業に変えてゆきたいと思います。

当学園では昨年11月7日に、卒業式と終業式を終了して、今年の1月23日に237名で新年度をスタートさせることが出来ました。貧しくて授業料を払えない子ども達への支援に感謝しております。

さらに昨年卒業した6年生29名の中学校入学国家試験の全員合格をご報告します。その中で、中学校入学にあたって、家庭の事情でお金に困っている3名に奨学金を手渡すことが出来たことに日本の皆様に感謝します。

今後ともルワンダの未来そのものである学園の子ども達の夢を実現するために、チャレンジしていきたいと思っております。





ウムチヨ ムィーザ学園の会計報告 2016年度3学期(8月1日~12月31日)

学費の納入状況の報告

\*2016/12/31現在時価換算による

納入状況	幼稚園			小学校						合計	金額
	年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
100%	16	9	11	31	21	32	27	26	22	195	2,023,480
その他	1	1	6	3	8	6	2	6	4	37	150,540
0%	5	8	2	11	14	14	12	7	4	77	0
合計	22	18	19	45	43	52	41	39	30	309	2,174,020
予算額											3,206,493
不足金額											1,032,473



1人あたり=75,000ルワンダフラン(約 9,912円)から  
1人あたり=75,000ルワンダフラン(約10,377円)に



2016年8月1日~12月31日会計報告 \*2016/12/31現在時価換算による

[収入]

[支出]

単位:円

項目	金額	項目	金額
学費(過年度回収分含む)	2,585,060	給料/手当	2,529,460
入学登録料	17,710	社会/健康保険料	667,175
学校保険掛金	0	所得税	765,062
パソコン教室収入	0	光熱費	43,232
ピアノリース収入	0	通信費	57,930
制服/学用品販売	44,925	印刷費	80,953
ユニホーム作成室賃貸	0	旅費交通費	155,805
バス運行収入	0	会議・研修費	231,055
水販売収入	921	施設維持費	107,518
アンテナリース収入	0	外部監査/弁護士料	70,175
家賃収入	41,507	医療保険料・治療費	1,563
その他の収入	186,751	市税	18,837
給食費	981,028	給食経費	802,613
考える会からの支援	573,265	備品	0
個人寄付	0	建設/リフォーム	825,374
補助金	0	交際費	109,095
繰越金	2,666,780	銀行手数料	49,916
個人からの返済	0	制服/学用品	73,682
		職員前借り	0
合計	7,097,947	合計	6,589,445

残金

508,502

日本の円を  
ルワンダへ送  
金すると、日々  
金額が変動す  
るので、毎学期  
の報告額を単  
純に比較できな  
いので、おおよ  
そのお金の動  
きとしてご理解  
願います。



保健室で健康診断を受けることが出来るようになりました

# てるちゃん日記

ルワンダでは「Izuba」(ルワンダ語で「太陽」と呼ばれている照子さん(当会理事斎藤照子 2012年8月28日日本を出発し以後ルワンダ在住)の近況をお知らせします。一緒にルワンダで生活している気分を味わってください。



皆さん、こんにちは！お元気ですか？

さて、今回は学校の現状や子ども達の様子をお知らせするのではなく、私自身の今後の活動について、皆さんにきちんとお伝えしたい事があって、その事について書きました。

私は2002年5月に、ルイズさんと運命的とも言える出会いをしてから今日まで、15年にわたる活動を、皆さんと共に続けて参りました。2012年8月、ルワンダに単身移住をしてからは、現地理事として、また学校のボランティア音楽教師として、私がやれる事は誠心誠意努めて参りました。15年間の長い活動を振り返ってみた時、何一つ悔いを残す事なく歩み続け、私自身が苦も楽も納得した日々であった事に思いいたします。

しかし、私の内なる声は、昨年からは当校だけにかかわる事なく、より広く大きく生きる日々であるようにと、発しておりました。その声に静かに耳を傾けた時、今年79歳を迎える我が身が、心身共に健全である時に前進するのが最良の時と心が定まり、会の理事は現状のまま、ボランティア教師の役割を卒業する事に致しました。

それなら、今後何をするのでしょうか？

それは、長年私のライフテーマでありライフワークである「違いを超えて、分ち合い共に生きる」を主旨に、私の個人プロジェクトを昨年夏に立ち上げておりましたので、「AMAHORO＝ルワンダ語で平和」と名付けたプロジェクトの活動に専念します。



このプロジェクトの最初の活動は、昨年7月1日発行のニュースレターに同封した「虹の鳥と子どもたち」の物語を、日本語、英語、仏語、ルワンダ語の4か国語の絵本で自費出版し、それを世界中の人達に無償で届ける事。今年6月には全ての絵本が完成し、各国への発送が始まります。



その第二は、ケニアの最大スラム街にある、スラムの子ども達が学ぶ「マゴシスクール」への支援と、スラム住民の文盲の人達への識字教育支援です。

スクールの支援は、すでに昨年からは始めておりますが、識字教育支援は、スクール創立者やスラム出身の先生達と協力して、寺子屋方式で、シングルマザーを中心とした人達へ実施します。

このプロジェクトは、立案、活動方法、資金提供も他の誰にも制約されず、私の祈念をそのまま具現化できるよう、私の責任のもとに個人プロジェクトとして立ち上げましたので、今後はこの活動に専念して参ります。

なお「照ちゃん日記」の継続は未定ですが、折をみて活動報告をする事もあるかと思えます。

皆さん、どうか私の想いをご理解下さいますように。そして、何卒これからもよろしくお願い申し上げます。

2017年2月8日

それでは、また。お元気で…… IZUBA照子



ウムチョムイーザ学園で「Green Legacy Hiroshima」  
 (平和の木をそだてよう) プロジェクトが始まりました！

1945年8月6日に投下された原子爆弾によって廃墟と化した広島は75年間草木も生えないと言われていましたが、その同じ年にカンナや夾竹桃(きょうちくとう)などの花が咲き、焼け焦げた樹木も芽吹き、その姿は多くの市民を勇気づけ、生きる希望ともなりました。広島市内の爆心地から半径2km以内に現存する被爆樹木は31種類、161本が存在しています。「広島の原爆を生き抜いた樹木を守り、その種や苗を世界の意味のある場所に届けることで、被爆樹木の存在と意義を世界に知らせ、平和のメッセージを伝えたい」という願いから、国連UNITARとNPO法人ANT-Hiroshimaの協働プロジェクトとして、平和首長会議、広島市、広島市植物公園、広島大学、広島県、樹木医の方たちの協力を得ながら、世界中にこの「Green Legacy Hiroshima」プロジェクトの輪を広げる活動が行われています。

「ルワンダの教育を考える会」でも、マリールイズ理事長が講演で広島を訪れるたびに、ANT-Hiroshimaの渡部朋子理事長を訪問し、「Green Legacy Hiroshima」プロジェクトについて、お話しを聞かせていただき、何度も打ち合わせを重ねてまいりました。また、2014年11月のウムチョムイーザ学園のチャールズ理事長の来日の際にもお邪魔し、この活動の意義を共有いたしました。



特定非営利活動法人

**ANT-Hiroshima**  
 Asian Network of Trust



ANT-Hiroshima 渡部さんと



被ばく樹木・カキの木の2世の前で、渡部さんと

広  
島  
で

そして、ウムチョムイーザ学園にも2016年2月、「カキ」・「グロネモチ」・「イチヨウ」の3種類の種を届けることができ、現在、「カキ」の種から発芽し、順調に生育しています。今後は、学園の「ピースクラブ」を中心とした生徒たちが水やりなどを行い、広島の被ばく樹木の生長を通して、より深い思いやりの心や平和を求める心を育てる情操教育の一助になるように取り組んでいきたいと思っています。

今後もウムチョムイーザ学園の生徒たちの成長とこの被ばく樹木の生長を一緒に応援してください！！



ルワンダで  
カキの種  
から発芽し、  
大きく生長  
しています！

また、「Green Legacy Hiroshima」プロジェクトでは、これまでにアメリカ・アフガニスタン・アルゼンチン・オーストラリア・カンボジア・チリ・コロンビア・イラン・シンガポール・オランダ・ロシア・南アフリカなど28か国の植物園や大学等に被ばく樹木の種を送り、どちらも順調に生長しているそうです。



# 「ルワンダ子どもの健康プログラム 2016」の報告

実施期間：2016年1月～12月

フェリシモ地球村の基金をいただき、ウムチョムイーザ学園で進めていた「ルワンダ子どもの健康プログラム 2016」の報告をします。

## 1 学園での健康診断



ウムチョムイーザ学園で AMDA の協力のもとフェリシモ基金の助成金をうけて行っているプロジェクトも、無事に2年目の事業を終了いたしました。カリオペ医師(現在、ルワンダから長崎大学に留学している医師)を派遣し、昨年引き続き、今年も子ども達への健康診断を9月8～9日の2日間にわたって実施しました。今回は、幼稚園・小学校合わせて91名の子ども達の健康診断を行った結果、44人(およそ50%)に病気が見つかり、医師から専門の病院へ紹介しました。一番多かった病気は虫歯(27人)でした。

また、昨年実施した健康診断で病気を発見することができた子ども(14人)の自宅へ看護師が訪問し、その後の病気の症状や、経過を聞いて廻るなどのアフターケアも行いました。

ルワンダでの健康診断は、周辺の学校からも注目されはじめ、心身ともに健康で学べる環境づくりに地域からも関心が寄せられています。



## 2 学園の衛生状態の向上



ルワンダは断水の期間も長く、水道から水が出ないことも多くあります。長年の課題であった水の衛生管理を改善するため、給食室で使用する貯水タンクの設置を昨年8月に行うことができました。一度断水が起こってしまうと、長時間の断水が続き、手が洗えない、トイレの水が流せない、などのトラブルが起きていましたが、雨水を貯めて利用する貯水タンクを設置したおかげで、学園の給食室の水の衛生環境問題の改善につなげることができました。貯水タンクの水を使って、調理用の水を確保でき、遠くへ水汲みに行く苦勞が緩和され、なおかつ調理室の水回りの清潔・衛生管理にもつなぐことができました。





# 「ルワンダの小学校教員の算数指導力向上プロジェクト」 (JICA 受託事業) 研修報告

## 1. 日本研修について

○期間 2016年11月27日～12月8日

○研修員4名(ウムチョムィーザ学園校長、同教頭、算数教員、ガサボ郡キミロンコ地区教育主任)



静岡大学にて算数授業の研修

ルワンダの小学校教員の算数指導力向上を目的としたプロジェクトの日本研修が行われ、研修員4名が昨年11月27日、来日しました。静岡大学で日本の算数教育の教授法、理数科教育の役割について学び、附属小学校では、授業を参観し先生方との意見の交換を行いました。

福島の小学校では特別授業で実際にルワンダの子ども達の遊びを紹介し、音楽授業では子ども達との演奏共演も体験。また指導案に基づく研究授業をとおして先生方が指導力向上に努める日本の学校の姿を知ることができました。

研修の合間には、仮設住宅を訪問し、ルワンダダンスを披露し交流。福島市のトークセッションでは子どもの教育についての討論にも参加し、ルワンダの小学校の取り組みを報告しました。静岡、福島、東京と移動しながら研修最後には修了式が行われ、マリールイズから日本研修の修了証が手渡されました。その後ルワンダ大使館を訪問し大使に研修報告、12月8日全員無事帰国の途に着きました。



福島市立清明小学校で

文責：阿部貞夫(研修担当)

## 2. 現地ルワンダからの報告



ルワンダに帰国した研修員は、1月にそれぞれ与えられたテーマで報告書を作成しました。それをもとに2月に帰国報告会を行い、研修員全員が日本の印象や日本の教育についてパワーポイントを使ってプレゼンをしました。報告会の目的は、研修員が日本で習得したことを、他の先生たちと共有することです。報告会は大成功で、終了後、参加した先生方だけでなく、プロジェクトの共同主催団体のADESOC(ウムチョムィーザ学園の運営母体)の会員からも、「算数教育の活動を是非、一緒にやりたい」との声が聞かれました。



報告会の目的は、研修員が日本で習得したことを、他の先生たちと共有することです。報告会は大成功で、終了後、参加した先生方だけでなく、プロジェクトの共同主催団体のADESOC(ウムチョムィーザ学園の運営母体)の会員からも、「算数教育の活動を是非、一緒にやりたい」との声が聞かれました。

教員の算数指導力を向上させるにはどうすればよいか。私たちが立てた計画は、日本で行われている教員研修をとり入れ、校内研修を通して教員が力をつけていくというものです。具体的には、月3回の校内研修を行い、年度の終わり(11月)に研究授業を行い、2年目には、対象を学園のある地域の全小学校に拡大して研究会を行う予定です。校内研修になじみのないルワンダの教育現場のために、校内研修のここでのひな形を開発してほしいと、JICAからも期待されています。

では、具体的に校内研修で何をしたらよいか。現地の教育現場の問題を探ることから始めています。授業を観て改善点を話し合う、子ども達にテストをして結果を分析し改善策を練るといった作業です。重要なことは、日本の教育現場にも改善すべき問題があり、ルワンダの現場には残しておきたいものがあるという視点です。今は、現地理数科コンサルと議論しながら校内研修の内容を決め進めています。



ルワンダで校内研修が始まりました

文責：廣瀬桂子(プロジェクト算数専門家)

# ルワンダ写真展

日時：2017年1月4日（水）～1月7日（土）

場所：福島市 チェンバ大町1F・7日報告会3F



当会の新年の始まりは、ルワンダ写真展から！！例年はコラッセ福島にて行っておりましたが、今年は、福島駅の東口側にありますチェンバ大町にて開催いたしました。前年度の活動報告を写真パネルやルワンダツアーに参加された管野千代子さんの撮られたフォトブックを置かせていただきました。ご来場いただいた多くの方々は、ルワンダコーヒー・紅茶や、当会の会員がルワンダのピーナツを使って作ったクッキーを食べながら写真展を楽しんでいた様子でした。



最終日の1月7日（土）には、JICA 青年海外協力隊員の大江里香（おおえさとか）さんをゲストにむかえ帰国報告会が行われました。コミュニティー開発の水の防衛隊としてのルワンダでの沢山のエピソードを披露してくださいました。多くの方々に来ていただき、大盛況で1年のスタートをきることができました。

ムラコゼキャーネ!(^^)!

# 新年会(1月例会)

日時：2017年1月14日（土）

場所：福島市 A・O・Zアオウゼ（アクティブシニアセンター）



9時45分頃から集まり、まずは恒例のルワンダ料理づくりから始まりました。

会場は調理室なので、道具もそろっておりとてもいい場所です。

ジャガイモの皮むきから始まり、鶏肉を油であげたり、炒めたり・・・

ルワンダ料理は、大変手間がかかりますが、皆さんそれぞれ協力して作業をすすめ、お昼から出来上がった料理をいただきました。



そして、マリールイズから昨年の支援への感謝と今年の活動について話がありました。

今年は、「ルワンダの小学校の算数指導力向上プロジェクト-JICA 受託事業」がいよいよ現地でスタートすること。そのため専門家もルワンダに派遣され早速2月には日本研修の成果を発表する「帰国報告会」がウムチョムイーザ学園で開催されることが話されました。



新年会には遠く山形県や宮城県、栃木県から駆けつけてくれた方もおられました。また、福島市内の仮設にお住まいの方も参加され楽しいひと時を過ごしました。

# Rwandaful Summer

2017

今年のルワンダフルサマーは、  
早川千晶さんとマリールイズの講演と  
ケニヤ音楽のライブを開催します。

## POLEPOLE 2017 TALK&LIVE in ふくしま ~ケニヤとルワンダから~

日時 2017年7月17日(海の日) 12:30 開場 13:30 開演

場所 福島県教育会館 福島県福島市上浜町10-38

内容 トーク：永遠瑠マリールイズ x 早川千晶

「アフリカの教育と未来」(仮題)

ライブ：大西匡哉 (アフリカドラム・歌)

入場料 500円 (ルワンダコーヒー・紅茶、クッキー付き)

早川千晶さんは、ケニヤに定住しナイロビ最大級のスラム・キベラで、孤児、ストリートチルドレンや貧困児童のための駆け込み寺「マゴソスクール」などを運営、アフリカツアーなどを手がけるかたわら日本で講演活動を行っています。



### —お知らせ—

総会 — 5月14日(日) 13:30~ 福島市働く婦人の家  
当会発展のために多くのご意見をお寄せください。

### ★各種振替口座番号のご案内です!★

会費振込・寄付・募金 (学園運営への支援をよろしくお願いいたします)

会費 1口  
5,000円

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会



【ゆうちょ口座自動振込み寄付】 月一口500円から

ホームページ掲載 目標100名まで継続して募集します。現在48名登録

事務局では、事務局スタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる方を  
随時募集しています。一緒に楽しみませんか。連絡をお待ちしています。



### —編集後記—

脳の動脈の瘤にプラチナを埋め込む手術を受けました。医療技術の進歩と命に真摯に向き合う姿に感謝の気持ちでいっぱいです。

生かされた命を笑顔で過ごしたいと思いま  
す。 T.S



### NPO法人ルワンダの教育を考える会

理事長 永遠瑠マリールイズ



〒960-8036

福島県福島市新町8-21

TEL:024-563-6334 FAX:024-563-6335

ホームページ：<http://www.rwanda-npo.org>

メール：info@rwanda-npo.org